



かせかけ

No.24

沖縄県立看護大学広報誌
2014(平成26年)6.30

教職員の動き

●就任・転入<平成26年4月>

就任 教授 宮城 恵子
助教 大島 泰子

講師 長堀 智香子
助手 金城 里奈

助教 與座 千代子
助手 荻堂 亜梨沙

転入 課長 大城 馨
主事 宮城 彬史

副参事 宮城 正侑
主査 美里 敏則

主査 玉城 哉子

●退職・転出<平成26年3月>

退職 特任教授 池田 明子
助手 榮口 咲
副参事 比嘉 清

特任教授 蛭名 美智子
助手 玉城 久美子(4月)
主査 幸地 哲

助教 高橋 幸子

転出 学務課長 新屋 幸一

主査 西表 敏克

主査 赤嶺 雄一

INFORMATION

オープンキャンパス・大学入試説明会2014

日時/平成26年7月26日(土) 午前10時より午後3時

第16回看大祭

日時/平成26年9月13日(土)~14日(日)

詳しくは
大学ホームページを
ご覧ください。

平成26年度の主な大学行事(平成26年4月~平成27年3月)

4月 3日(木) 入学式	11月15日(土) 特別選抜入試(看護学科)
4月 7日(月) 前期授業開始	11月15日(土) 推薦選抜・社会人特別選抜入試 (別科助産専攻)
5月15日(木) 開学記念日	
7月26日(土) オープンキャンパス	1月17日(土)~18日(日)大学入試センター試験
8月17日(日)~9月5日(金)ハワイ研修	2月12日(木) 一般選抜入試(別科助産専攻)
9月 6日(土) 大学院入試	2月25日(水) 一般選抜入試(前期・看護学科)
9月13日(土)~14日(日)第16回看大祭	3月12日(木) 一般選抜入試(後期・看護学科)
10月 1日(水) 後期授業開始	3月15日(日) 卒業式

「かせかけ」とは

かせかけとは、琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは
紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている
様子を指しています。沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つ看護
職者の育成をめざしています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ
布を織って綺麗な着物に仕立てていく、その一途の心と地道に
して洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の
継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原
点に相通するものであろうと、広報誌の名称にしました。



琉球古典舞踊「かせかけ」
に用いる道具

沖縄県立看護大学

〒902-8513
沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098) 833-8800 (代表) FAX (098) 833-5133
http://www.okinawa-nurs.ac.jp

編集 沖縄県立看護大学/広報・情報専門部会
発行 2014(平成26年)6月30日

沖縄県立看護大学

検索

CONTENTS

入学式★ようこそ看護大学へ!!

学長・学生会長からのメッセージ2
新入生の声2

シリーズ のぞいてみよう看護大学

~つなぐ・広がる・みんなの輪~ 1年次宿泊研修.....3
~ハワイからの研修生を受け入れて~.....3
~楽しく学ぶ 講義風景~4
学生のサークル活動紹介5

大学機関別認証評価を終えて5

発見! 素敵な横顔 看護学部新任教員6

包括的専門看護師養成の報告会・

シンポジウムを終えて6

新たな出発! それぞれの夢に向かって7

教職員の動き8

お知らせ8

平成26年度の主な大学行事8



平成26年度入学式 ようこそ看護大学へ!!

平成26年度入学式・ようこそ看護大学へ!! 学長 前田和子

本学は、日本の最南端にある小さな単科大学ですが、全国に存在感を示しています。それは、開学以来、空高く飛ぶ鳥のような眼で(国際的な視野で)地域の問題を見つめ、地を這う虫のようにきめ細かい目でそれらを解決するグローバルな保健看護人材を育てるために、いつも挑戦するという哲学が組織的に引き継がれているからです。本学が宮古島、石垣島、久米島にサテライト教室をもち、夜間・土日に遠隔教育を行っているのも挑戦です。

学部も別科もそして博士後期課程まで見据えた教育を可能にしているのは、勤勉で優秀な学生と先見性と実力を備えた教師陣が両輪として揃っているからです。また、同窓会・後援会をはじめ、県内の保健医療関係者や沖縄県・市町村等県民からいただいている支援に感謝をして、それぞれがなすべきことを共にやりましょう。



充実したキャンパスライフを共に送りましょう 学生会長 伊波慶亮

希望と期待を持って本学の門をくぐられた新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同、皆さんを心より歓迎いたします。本学では、「看護とは何か」からはじまり、看護を実践するために必要な知識・技術などを、講義や演習・実習を通して学んでいきます。また、島嶼県にある県立の看護大学として離島で看護を学ぶ機会もあります。

本学にはスポーツ系や文化系サークル、球技大会、渡嘉敷島研修、看護大学祭など楽しいイベントがたくさんあります。授業だけではなく、課外活動に参加することで、同学年や先輩、教職員、さらには他大学学生と交流することができます。様々な活動で得た友や経験は将来の宝物になると思います。積極的に活動に参加し、充実したキャンパスライフを送りましょう。

新入生の声

知識が増える
新鮮さと
楽しみを実感



看護学科1年次 安仁屋静香

私が沖縄県立看護大学に入学して約2ヶ月が経ちました。授業はほぼ講義が中心で、日々新たな知識が増えていくことに新鮮さがあり、とても楽しいです。また、1年次宿泊研修や渡嘉敷研修、サークル活動へ参加することによって、同級生や先輩方と交流を持つことが出来、すぐに学校に馴染むことができました。これからも、この充実した生活を大切にして、自分の夢に向かって頑張っていきたいです。

将来は沖縄県の
母子や家族に
寄り添った温かい
ケアができる実践者



別科助産専攻 上原亜沙

私は、今年3月に看護学校を卒業し、別科助産専攻に入学しました。沖縄県には多くの離島や過疎地域があり、今後ますます母子保健医療の充実が重要になってきます。本学では県内の離島実習やウィメンズヘルス実習をとおして沖縄県の母子保健医療を身近に学べることを嬉しく思います。助産師としての土台を築く貴重な一年間を、同じ夢を持つ20名の仲間とともに充実させ、将来は県内の母子やその家族に寄り添った温かいケアが出来るよう、日々自己研鑽に励みます。

学びを仕事に
活かし
対象者へ還元



博士後期課程 笠井久美

本学の博士前期課程を卒業後、看護師や保健師として勤務していましたが、もう1度、勉強してみたいという思いから博士後期課程に入学しました。卒業してから7年も間があいており、今回は子育てや仕事をしながらの学業になります。うまくバランスをとりながら両立できるのか不安もありますが、走り出したからには皆に刺激を受けながら励みたいと思います。そして、学びを仕事に活かすことにより関わる方々に少しでも還元できるようにしていきたいです。



シリーズ

のぞいてみよう看護大学

～つなぐ・広がる・みんなの輪～ 1年次宿泊研修

学内と違う学生の姿に感動。
学生ってすごい!!

1年次部会委員 下中壽美



入学式の翌日、バスに揺られ1時間。到着したのは「玉城青年の家」。出会ったばかりの学友・教員・先輩との宿泊研修の始まりです。チーム対抗フィールドビンゴで汗を流した後は、グループワーク。グループ毎にテーマ(SNS、バイトetc...)を調べ、本学の学生らしいライフスタイルを送るための決意を作成しました。「これって何?!」「明日の発表どうする…」悩み、戸惑いながらも皆でディスカッション。頭を使った後は…待ちに待った野外バーベキュー!! おいしい肉を囲んでわいわい!! あたりが暗闇に包まれた頃、勢いよく燃える炎と、どこか懐かしい(学生にとっては初耳?)定番ソング「燃えろ～よ、燃えろ～♪」…。その他にも学生交流会、交通安全講話など多くの企画が実施されました。

すべての企画が無事に終了したのも、学生会や教員の協力があったこそだと感謝しています。おまけに新発見!学生ってすごい!大学内とは違う姿に感動です。研修を通して、目標である学生間、教員との相互交流は深められたでしょうか。大学生活スタートの中で、記憶に残っていたら嬉しく思います。

～ハワイからの研修生を受け入れて～

好奇心旺盛。目を輝かせながら
沖縄を学ぶ・遊ぶ・楽しむハワイからの研修生

国際交流室運営委員会 山城綾子

2014年3月22日(土)から29日(土)の1週間、研修目的でハワイ大学マノア校、マウイ校、カウアイコミュニティカレッジ、カピオラニコミュニティカレッジから9名の学生と3名の引率教員が本学を訪れました。沖縄県における高齢者医療制度や看護教育の歴史についての講義をはじめ、医療機関3施設の見学を行いました。今年度は遠隔システムを活用して、宮古と八重山在住の教員・大学院生との交流も行いました。また、本学学生とともに世界遺産である首里城を訪れ琉球王国の歴史や文化を学び琉球お茶菓子の体験を楽しみました。さらに南部戦跡巡りでは沖縄戦激戦の地である摩文仁へ足を運び、ひめゆりの塔やひめゆり平和資料館、沖縄平和祈念堂では何度も涙を拭う姿が見られました。平和の礎ではご自身のご祖父母のルーツを辿る日系学生もおり、それぞれの思いを胸に南風の吹き渡る丘から海を眺めて静かなひとときを過ごしました。

修了式では三線サークルから習った練習の成果を披露しました。滞在期間中、本学学生と教員がホストファミリーとして学生を受け入れ、1泊2日のホームステイを経験しました。南部では斎場御嶽、北部では海洋博公園内美ら海水族館まで足を伸ばし、空港での集合時間ぎりぎりまで観光やショッピングを満喫していました。好奇心旺盛で沖縄の歴史、文化や言語を吸収しようと毎日目を輝かせていました。今夏予定されているハワイ研修セミナーで再会できる日を楽しみにしております。



～楽しく学ぶ 講義風景～

学部 小児保健看護演習

なるほど! 子どもと家族への看護シミュレーション学習
—小児保健看護演習でのとりくみ—

講師 上原和代

3年生の後期にはいよいよ小児(科)病棟での2週間の実習が始まります。子どもってどうやって接すればいいの～?!と苦手意識をもっている学生さんもいるかもしれませんね。実習前の1週間、連続して20名前後の少人数で学ぶ小児保健看護演習(1単位,15回)では、従来の学習方法に加え、病気をもつ子どもと家族への看護シミュレーション学習を行っています。さて、シミュレーション学習って何でしょうか?具体的にいうと、臨床実習に出る前に病室(に見立てた実習室)で(お人形の)子どもと(教職員扮する)家族へこれまでに学んだケアをやってみます。この学習方法の良い点はまちがってなんぼ!なところ。シミュレーション前の緊張は一瞬、始まってしまえば皆、真剣そのもの。後はそれらを材料に、AくんのSpO2は…、次はこんなケアを試みようよ、と学生同士で情報・アセスメント・ケアをホワイトボードに書きだします。そして次の学生さんがシミュレーションするというぐあい。演習が終わる頃には子どもとの距離も一歩、近づいているようですよ。



別科助産 基礎助産学演習

実践に即した内容満載、楽しく学んでいます

別科助産 講師 大城すぎの

「基礎助産学演習」は2単位60時間の必修科目です。「超音波画像診断」は妊娠中の基本的な計測ができることを目標とし、学内でシミュレーターでの演習を行った後、病院の産科外来で妊婦さんの協力の元、実際に計測を行います。「胎児心拍モニタリング」は、胎児心拍モニタリングの判読により胎児の健康状態の判定ができることを目標とし、基礎編と臨床編に分けて演習を行います。IBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)の資格をもつ非常勤講師が担当する「母乳育児支援の基本と実際」では、WHO/UNICEF「母乳育児成功のための10カ条」に基づいた母乳育児支援ができるようロールプレイも取り入れた演習を行います。また、「新生児の家庭訪問と乳幼児健診の実際」では地域で活動している助産師をお招きし、実際の場面を設定した演習を行います。このように助産実習に必要な、実践に即した内容を満載した「基礎助産学演習」。学生たちは目を輝かせながら楽しく学んでいます。



学生のサークル活動

障がいのある子どもや家族の喜びや楽しみをサポートする

美ら笑ばーサークル長 吉岡祥子

美ら笑ばーサークルの目的は、障がいや疾病のある子どもとその家族が共に様々な体験を通して多くの喜びや楽しみを感じることができるようサポートをすることです。主な活動は月に2回大学の体育館でのレクリエーション活動と季節ごとのイベントのサポートを行っています。また、看大祭では美らパークという子どもを対象にしたゲームコーナーの出展を行っています。子ども達と一緒に私たちもとても楽しく活動しています。興味がある方はぜひ参加してみてください。

クリスマス会



美らパーク

やりたいことを主体的に探し、活動の幅を広げる

アジア保健医療研究会サークル長 町田千洋

私たちアジア保健医療研究会は、主にアジアの国際保健について学んでいます。自分たちの興味のあることややりたいことなどを主体的に探し、学んでいくサークルです。アジアの食文化を学ぶために、実際に料理を作ってみるなどして、日々楽しく活動しています。また、他の分野のことでも興味があることには積極的に参加し活動の幅を広げており、琉球大学医学部のサークルとの交流なども行っています。



大学機関別 認証評価を 終えて

学部長 嘉手苺 英子

平成25年度実施の大学機関別認証評価を受け「大学設置基準を始め関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。」との結果を得ました。優れた点として、大学の使命として地域特性を踏まえて地域に貢献する人材育成を重視している事や、島嶼保健看護の教育研究に全学的に取り組んできている事が評価されました。改善点としては、講師定数の設定と附属図書館蔵書の整備の遅れが指摘されました。詳細は本学HPをご覧ください。

研究成果の質向上に向けた課題

選択A(研究活動)
教授 金城 芳秀

初めて「研究活動の状況」の認証評価を受けましたが、「目的の達成状況がおおむね良好である。」との評価結果でした。その際、優れた点は、「島嶼保健看護学の開拓に向けて、全学を挙げて教育研究に取り組んでいる。」と評価され、さらなる向上が期待される点は「島嶼保健看護学のみならず、看護学全般にわたって研究成果の質を高めていく努力が望まれる。」、改善点としては「科学研究費補助金の申請が一部の教員にとどまっており、また、受託研究等の外部資金の受け入れ実績も少ない。」と指摘されています。今後、研究成果の質向上に向けて、教員個々の努力はもちろん、支援的環境の充実が課題となっています。

地域のニーズ(課題)と大学のシーズ(資源)

選択B(地域貢献活動)
教授 大湾 明美

社会が求めている大学の役割には、「教育」と「研究」に「地域貢献」が加わっています。本学は開学以来、地域のニーズ(課題)を大学のシーズ(資源)で地域貢献してきました。本学の地域貢献活動は、大学機関別認証評価基準に照らして「優れている」との外部評価を受けました。これからも、教職員・学生が一丸となって地域志向の教育、研究、地域貢献活動に取り組み、地域に必要とされる大学として発展させましょう。

発見 素敵な横顔 …… 看護学部新任教員 ……

実践者になる学生に臨床現場の醍醐味を伝えたい

教授 宮城恵子

4月1日付けで保健看護管理の教授として着任しました宮城恵子です。

朝、与儀交差点から大学まで、遠い昔、県立那覇病院(現在の看護大学)に通った懐かしい道、変わった風景を眺め、不思議な感覚を覚えながら出勤します。新しい世界に胸をときめかせ、時折、不安も顔をのぞかせます。

私は34年間、民間病院で看護管理者、副院長として病院経営に関わってきました。その経験を活かして、実践者になる学生さんに臨床現場の醍醐味を伝えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



気がつくとも学生と一緒に笑っている自分に驚き

助手 金城里奈

基礎看護の助手に着任した金城里奈です。

本学6期生として卒業後、県外の病院や訪問看護ステーションで勤務。帰沖後、本学の教育補助嘱託員として1年超、従事しました。変わりゆく教育現場やさまざまな看護観にふれる日々。学生の素直で吸収力があり、ぐんぐんと成長する姿や、キラキラ輝く笑顔に癒され、気づくと一緒に笑っている自分に驚き、学生のパワーを感じずにはいられない毎日です。学生に近い存在で共に学び成長できるよう頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。



Break timeは三線とちんすこう

講師 長堀智香子

北海道旭川市から来ました。専門は一応、国際保健で、現在、「アフリカ・カメルーン共和国の5歳未満の子どもの栄養評価と関連要因」について研究しています。沖縄県立看護大学の流れも、地域保健看護領域の流れも分からないまま、ただただ日々流されつつ、なんとか過ごしております。最近のマイブームは「ちんすこう食べ比べ」、長期目標は「三線を弾きながら涙そうそうを歌う」事です。皆さま、ふつつか者ですが、宜しくお願いします。



学生に看護実践の楽しさを伝えたい

助手 荻堂亜梨沙

4月15日付けで成人保健看護の助手として着任しました。本学を卒業後、内科・外科病棟で5年間勤めてきました。学舎に戻り、お世話になった先生方と共に働くことへの違和感や緊張感もありますが、今度は看護教育という視点で勉強ができることを嬉しく思います。学生へ臨床での看護の楽しさを多く伝えられるような関わりができれば幸いです。教育者として未熟ですが、頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



～大学院～ 包括的専門看護師養成の報告会・シンポジウムを終えて

包括的専門看護師養成事業副責任者：神里みどり

本大学は平成23～25年度の3年間、文部科学省の採択事業である「島嶼における『包括的専門看護師』の養成」に力を入れてきました。その成果報告会とシンポジウムを3月2日(土)に開催し、島嶼看護の専門看護師像について学びを深めることができました(参加者159人)。本補助事業終了後は、名称を「実践島嶼保健看護」と改名し、大学院での継続した人材育成を行っていきます。沖縄唯一の離島で活躍できる新たな専門看護師の誕生にあなたも挑戦してみませんか!



大学院生5人による発表

新たな出発! それぞれの夢に向かって



平成25年度の卒業式並びに修了式が3月15日(土)に執り行われました。お天気にも恵まれ、多くの方々に見守られながらそれぞれの夢に向かって思い出っばいの学舎を巣立っていきました。涙あり、笑いあり、時にはけんかもしたけれど、素敵な仲間と共に刻んだ年月を宝物に、自分で決めた道を信じてそれぞれの夢に向かって、いざ行こう!!

卒業は始まり。自分の夢を目指し成長していきたい

看護学部看護学科12期生 玉城逸美

大学で過ごした4年間は瞬く間に過ぎ去り、看護に必要なことを広く深く学ぶことができただけでなく、辛いときも支えあうことのできる大切な仲間達と出会うことができたと感じています。私は、本学の別科助産専攻へ進学が決まり、自分の夢である助産師を目指し、日々勉強に励んでいます。まだまだ始まったばかりですが、助産師という仕事の魅力を改めて感じています。この1年、同志とともに切磋琢磨しながら成長していきたいです。



涙した経験も成長の糧

別科助産専攻6期生 我喜屋聖子

別科助産専攻の授業はグループワークが多く、多様な価値観と触れ合う機会が得られました。また、教員や施設指導者の方々・そして何より受け持ち妊産婦さんや赤ちゃんの存在に支えられながらハードな実習を乗り越えることができました。決して楽な学生生活ではありませんでしたが、今となっては涙した経験でさえ、成長の糧となっています。助産師になれたのは周囲の協力があっての事。その事に感謝しながら、これからも日々自己研鑽に励んでいきます。



人生の中で最も贅沢な時間だった3年間

博士前期課程8期生 上里さとみ

3年間の修学期間を経て、この3月に院を修了した上里です。その期間、仕事と家庭の両立に加え学び続けることに苦労することもありましたが、人生の中で最も贅沢な時間を過ごしていたと思います。現在は病院で教育担当として勤務しています。自己の課題でもある介護について、特に超高齢社会において豊かな老いに向かうための課題解決に向きあい、教育の場と連携しながら高齢者ケアについて探求していきたいと思っています。

